

## 第3回 AWaP 総会について

国際戦略室

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsは、17項目にわたる「持続可能な開発目標」を定めており、その中のひとつGoal 6は、Clean Water and Sanitation－安全で清潔な水と衛生システムの確保－を目指しています。Goal 6はさらに具体的な8つのTargetを掲げており、そのTarget 6.3は「2030年までに、汚染の減少、有害な化学物質や物質の投棄削減と最小限の排出、未処理の排水の割合半減、およびリサイクルと安全な再利用を世界全体で大幅に増加させることにより、水質を改善する」ことを提唱しています。

さて、本稿のテーマであるアジア汚水管理パートナーシップ Asia Wastewater Management Partnership (AWaP)は、国土交通省と環境省が連携し、アジア数か国や国際機関とともに設立しました。SDGs Target 6.3の中にある「未処理排水の割合を2030年までに半減すること」への貢献を大きな目標のひとつとしています。

2018年7月に北九州市で開催されたAWaPの第1回総会には、日本の他、インドネシア、カンボジア、フィリピン、ベトナム、ミャンマーが参加しました。日本の国土交通省と環境省が共同で運営する事務局を東京に設置することに合意し、実施ガイドラインや作業計画について議論が交わされました。

AWaPのメンバーは、汚水管理やその政策立案に携わる各国政府関係者で構成されています。これら関係者の定期的な会合により、汚水管理の現状や共通課題を共有し、解決策を議論し、ひいては参加各国において、水道や他の公共事業に比べて現時点では優先度の低い下水道の主流化実現を目指しています。

今回の第3回AWaP総会は、下水道展の併催イベントとして、8月1日に札幌で開催されました。2021年の第2回総会は、コロナの影響によりオンラインで実施したため、対面での開催は実に5年ぶりでした。

インドネシア、カンボジア、フィリピン、ベトナムから招聘された各国3名ずつの代表者に加え、主催者である国土交通省と環境省、関係機関である国際協力機構(JICA)、地球環境戦略研究機関(IGES)、日本サニテーションコンソーシアム(JSC)、そしてJSから約40名が参加しました。議長および進行は、第1回、第2回に続いて、京都大学の藤原拓教授とJSCのピエール・フラマン博士が務められました。

総会は、各国からの活動報告を行うセッション1と、2030年に向けた活動計画を議論するセッション2から構成されました。

セッション1では、日本を含む各国から下水道に対する意識改革や共通課題解決のための具体的な取り組みが報告されました。セッション1の最後に各国が互いの活動報告について感想を述べましたが、日本のある取り組みについてのインドネシア代表のコメントが印象的でした。日本では人口減少への対応策として集中処理・分散処理の対象地域の最適化が行われており、この二つの処理方法のバランスポイントを定期的に見直しています。この取り組みに対するインドネシアのコメントは、人口減少が課題となっている日本では、人口増加のただなかにある自国とは逆の目的で最適化が行われている点が興味深いというものでした。各国の下水道の整備状況にはばらつきがありますが、下水道事業のライフサイクルを考えると、どの国の事例も過去に経験したかあるいは将来経験する事であり、決して他人事ではないと感じられました。

セッション2では2030年までの活動計画が議論されました。これは、事前に各国から提案されたものを事務局がまとめ、今後のワークプランとして提示したものです。このワークプランにはすべての国が賛同し、2030年までこの方針に沿ってAWaP活動を継続して推進することになりました。

セッション2のディスカッションでは日本以外の4か国から、「AWaPの活動の目安として、数値目標を設定してほしい」という要望がありました。事務局からは、AWaPでは今のところ具体的な数値目標は設定していないが、皆さんからのご要望があれば今後検討するという回答がありました。また、「下水道普及率の目安が公共下水道への接続率を指すのであれば、島しょ国であるフィリピンやインドネシアでは分散処理が主流なため、数値上、普及率がいつまでたっても上昇しないことになる。そのため、AWaPの中で下水道普及率や分散処理・集中処理などの定義を明確にしてほしい」という要望もありました。この要望に対する事務局の回答は、今後定義づけを行いたいというものでした。

総会終了後、午後からは技術セミナーが行われ、エントリーした9社の日本企業が、各国に向けた下水道技術のプレゼンテーションを行いました。今回はプレゼン後の質疑応答に代わり、各国と企業との短いセッション（ネットワーキング）が設けられました。その後下水道展の会場に移動し、セミナーにエントリーした企業のブース等を視察しました。午後はかなりのタイトスケジュールで、各国から参加された皆さんも相当お疲れだったと思いますが、下水道展のブースでは各企業担当者の説明を熱心に聞き、質問もされました。

AWaPでは今後、2024年の運営委員会、2025年の第4回総会開催などを予定しています。2025年開催予定の総会は、ホストが日本以外の国になる可能性もあり、今後の活動の広がりが期待されます。